

令和7年度 第2回清水町総合計画審議会 会議録（要約）

日時 令和7年10月6日 18時00分～19時25分

場所 清水町役場2階 庁議室

- 【出席者】五十嵐卓、長谷川弘、高充慶、矢萩利浩、
笹原恵介、徳田貴士、梶貴博、横山麻悠美
【欠席者】今野典幸、川村智洋、中村暁子、鈴木愛
【オブザーバー】株式会社K I T A B A関場氏、大川氏
【事務局】鈴木課長、佐藤補佐、青砥係長、有田主事

1. 開会【進行：鈴木課長】

2. 町長挨拶

清水町総合計画審議会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日の審議会の開催にあたりましては、委員のみなさま、ご多用の中ご出席いただきましたことに、厚くお礼を申し上げます。

審議会委員の皆様におかれましては、総合計画における重点施策である、「清水町人口ビジョン・総合戦略」の実施評価などを通じ、総合計画の推進について、ご意見、ご協力を賜っているところであります。

本日の議案である「第6期清水町総合計画基本構想の見直し方針」及び「第6期清水町総合計画後期基本計画（素案）」につきましては、前期計画での反省や日々変化する社会状況を踏まえた上で計画した素案となっております。

今後のまちづくりの根幹の計画を審議する、とても重要なものとなっておりますのでこの後の事務局からの説明を踏まえまして、皆様を感じられた率直な感想やご意見について、いただければと思います。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

3. 会長挨拶【五十嵐会長より】

本日はお忙しい中、第2回清水町総合計画審議会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

本日の議題について、これより事務局から説明がありますので、皆さんより活発なご意見をいただき、会議を円滑に進めて参りたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

4. 諮問

5. 協議事項【青砥係長より一括説明】

（1）第6期清水町総合計画基本構想の見直し方針について

（2）第6期清水町総合計画後期基本計画（素案）について

【矢萩利浩】

第6期清水町総合計画 19Pにある清水町人口ビジョン値の 2025 年社人研推計が 8,893 人となっているが 2025 年 8 月末現在の数字が 8,669 人と当初示されていた社人研推計よりも少なくなっている現状がある。社人研推計よりも人口目標値は高く設定されると思うので今回の変更の際には悲観的に観た中で人口目標値を設定する必要があると感じたがいかがか。

【鈴木課長】

人口ビジョン値に対する考え方ですが今後人口については右肩下がりになっていくと考えている。その中で社人研推計においても数値が下がっていくことになるが目指していく理想値ということで目標値は高く設定させていただいている。

【笹原恵介】

人口が減少していくことは日本全国同じような状況であり仕方がない部分であるため人口を維持していくことが大切であると考えている。出生率を上げることも大切であるが何か対策を打ったからといって各家庭の事情があるため結果がでにくいと思う。そのため、外部から人を呼ぶことが大事になってくると考えるが今後町としてそういった分野で対策をしていく予定があるのか伺う。

【鈴木課長】

移住定住は取組む課題として、力を入れていきたいと考えている。取組については、町長の公約の一つであるもらえる戸建て制度を上手く活用していきたいと考える。その前段には移住先の一つとして清水町の名前が広く知られていないといけなないので清水町の知名度の向上についても併せて進めて行きたいと思う。

【徳田貴士】

住み続けたい町を目指す中で街中の踏切付近の電柱にカラスが大量にいるのは環境整備が出来ていないと感じるので対策は必要であると考えている。また、最近では熊の出没報告も増えていると感じるのでそういった自然に向けた対策も必要になっていくと考える。

【鈴木課長】

街中のカラスについては生活環境の維持という部分の対策になるかと思うが対策については街中ということもあり限られたものになってしまうのが現状である。ただ、清水町のイメージを保つことが必要であると考えてるのでご意見として受け止めさせていただく。

熊につきましては市街地に出た際と山に近い農村部で出た際の対応が異なってくるため町内の連絡体制を整えた上で町民に対する連絡を徹底させていただく。

【梶貴博】

清水町人口ビジョン値を目指す姿として高い数値を設定していることは良いと思うが他の町村が行っていない清水町独自で行っている施策が影響し、出生率等が上がるといえるような根拠となるものが何かあるか伺う。

【鈴木課長】

現在清水町で行っている主な施策としては出生祝い金の支給、高校生までの医療費無料化、色々な子育てへの費用の助成、修学旅行費の助成、スキー授業での助成等子育てに対する出来る限りの助成をさせていただいている。課題としては遊び場の少なさ等の子育ての環境の整備だと考えている、課題を念頭におき今後も子育て世帯が集まる街を目指していきたいと思う。

【梶貴博】

子育てを清水町で行う中で一人の親として子育て世帯に対する各種補助の取組には感謝しているがどの町村も同じようなことをしている状況がある、他町村との違いを創るためにはインパクトのある施策が必要であると考え。そのため、清水町の知名度を高めようとする取組や貰えると戸建て制度等新たな取組は成功するか失敗するかはわからないが良いと考える。また、清水町内で開催される各種お祭りは清水町の名を広めることや子育て世帯に対する楽しい面白い町のアピールにも繋がると考える。個人的ではあるが出産祝い金の様に金銭を渡して終わるものよりも育児に対しての補助をより充実させた方が清水町で子育てをしたいと思う人は増えていくと思うがどうか。

【鈴木課長】

ご意見として今後の参考とさせていただく。

出産した後の子育てのしやすさという部分も大切にしていきたいと考える。

【横山麻悠美】

子育てをしていく中で、町で開催されているイベントに参加させていただいているがどれも楽しく面白いと感じている。町内で開催されている事業が実は町の人口対策に繋がるケースは他町村でも見受けられるため、今やっている清水町の事業を更にどう発展していくかを考え実施することが大切であると考え。

子どもの冬の遊び場について、部活動の兼ね合い等があるのは重々承知しているが体育館が使用できないこともあるので遊ぶ場所が少ないと感じている。

町内の外国人について、人数が増えていると感じているが関わる機会が無いのでどういった方が住んでいるのか、人柄を知れる機会があればよいと考える。

【鈴木課長】

子供の遊び場については今後の検討課題とさせていただく。

外国人については 300 人程度現在清水町内に住んでいるがほとんどが会社等の寮に住んでいる状況である、今後についてはお互いが文化を知る機会の創出が取組んでいく課題の一つとして必要であると考えている。

【高充慶】

基本計画 P 4 について、基本的方向の 3 に再生可能エネルギーの利用を促進します、と記載があるが再生可能エネルギーについて現状問題が色々ある中で促進するは危ういと感じているがどうか。また、太陽光発電等の設置に対し、清水町として制限できるものはあるのか。

基本計画 P 6 について、交通安全対策の推進とあるが清水町は学校周辺にスクールゾーンが無く危険であると思うので学校周りに関しては規定を作り速度を下げていかないとけないと感じている。また、交通安全のパトロールとして通学路に立っていただくボランティアの人も減っていつている状況があるため、その部分についても対策が必要であると感じている。

基本計画 P 13 について、基本的方向の 2 に障がい者（児）とその家庭を社会全体で支えるとするが、社会で家庭を支えるには介入していくことが大切であると感じている、個人的な視点にはなるがまだまだサポートが必要な家庭は多くあると感じるので具体的にどうサポートしていくかを考え、手の差し伸べやすさを向上していくことが大切であると思う。

行政の収入について、学校の中の古い備品を売るなど、行政としても捨てて終わりではなく活用できるものは上手く活用していくことが今後必要になると思う。

【鈴木課長】

再生可能エネルギーの促進部分については、ご意見として留意させていただく。太陽光においては町で設置に対し制限することが出来ない状況である。また、エネルギーの創出においては自然を壊さない形が必要であると感じている。今後国の状況をみながら近隣の町村と共に対応について対策していきたいと考えている。

交通安全と障がい者支援については関係法令に則り、関係機関を通じて出来る限りの対応をさせていただこうと考えている。後継者対策、担い手不足については今後こういった形で対応できるのかを考えていきたいと思う

不要物の再利用については今の考え方や時代に併せた形で対応させていただこうと考えている。

【梶貴博】

清水町で太陽光の設置に対する制度が無いのはなぜか。

【鈴木課長】

これまでの経過として市街地付近での太陽光の設置が多くなく苦情等もなかったことと、国の方針として再生可能エネルギーを推進している経過があったため制限の制度を設けてはいなかった。今後については国の状況を踏まえながら太陽光設置については制度設計が必要になってくると考えている。

【梶貴博】

清水町は景色等の自然を重視していると考えるので制度の設置は急務と考えるがどうか。

【鈴木課長】

どういった方法があるが対応について検討していきたいと考える。

【五十嵐会長】

清水町は水源が他国に買われることはあるのか。

【鈴木課長】

清水町の水源に関しては周辺の土地所有が公共団体であること、事前の届け出の際に内容を確認できることから売買に対しては対応できると考えている。

【長谷川弘】

自然減は仕方がない部分であるが社会減を食い止めていくことが大事だと考える。清水町は十勝管内で比較すると減少率は低い方であるため今後も継続してもらいたい。

高校振興の関係や移住定住等費用対効果の考え方が町全体で一枚岩では無いと感じるので町全体で盛り上げ、町を挙げて政策に向かうのであれば後はより丁寧な説明が求められると考える。

【鈴木課長】

今後も社会減を少しでも減らせるように様々な施策に取り組んでいく。その過程の中で費用対効果の丁寧な説明に務めたいと考える。

【矢萩利浩】

基本計画内で気になった部分を羅列させていただく。

宿泊機能に関して、清水町は他町村と比べると宿泊場所が少ないと感じている、まだまだ魅力ある特産品は色々あるので見てもらえる機会を増やしていくことが大切であると考えている。

移住定住を促進していく中で御影に世帯向け住宅が少ないと感じる。

若い世代の情報発信能力が高いと考えるので高校生の力をいれていくことは今後も大切であるとする。

多文化共生の推進については文化を知る機会が必要であるとする。

町有財産の利活用について、公園や町の駐車場を無料で提供することが出来ればキッチンカー等のイベントが開催できるのと国道から清水町の盛り上がりアピールすることが出来るとする。

総括して外から人がきてもらえることに繋がることを推進していくことが大切であるとする。

【鈴木課長】

全てにおいて取組む課題として、今後の参考とさせていただく。

宿泊場所についてはこういった形での対応が可能であるのかを検討していきたいとする。

空き家の有効活用についても今後大切になると考えている。

現在も高校生を絡めた事業は行っているので今後も継続して、高校生の力を取り入れていければとする。

公共施設の利活用については過去に活用していた経緯もあるので事業内容にもよりますが今後使用については検討できると考える。

【梶貴博】

町が補助等のバックアップをするような形で清水駅前の商店街空き家の活用や古い店舗の使用は考えとしてないか。

【鈴木課長】

チャレンジショップの様なものは必要になってくると考えるが空き店舗や空き家の持ち主の方との兼ね合いを考慮する必要がある。今後の1つのアイデアとして受け止めさせていただく。

6. その他

【株式会社 KITABA 関場聖】

審議会委員の皆さんが出した空き店舗の活用や若い世代の力を取り入れることについては住民協議会の中でも活用の実現に向けて出ている意見です。清水町の中で今後こういった活動として実現できるかはこれからになってきますが少しでも町の活性化や皆さんの想いを形に出来ればと思います。町づくりは一つ一つ出来ることを達成していくことがチームワーク向上に繋がるので少しでも力になればと考えています。

【青砥係長より今年度の総合計画審議会の開催日程について説明】

7. 閉会